



国際ロータリー2760地区

2009年～2010年度

# WCS活動報告書



世界社会奉仕委員会



2009-10 年度

RI テーマ



## ロータリーの未来は あなたの手の中に

ジョン・ケニー

2009-10 年度 国際ロータリー会長  
スコットランド、グラニジマウス

### ロータリー歴

2009-10 年度	国際ロータリー会長
2007-08 年度	2008 年度国際大会推進委員会副委員長
2000-04 年度	ロータリー財團管理委員
1996-97 年度	国際ロータリー執行委員会委員長
1995-97 年度	国際ロータリー理事
1992-93 年度	RIBI 会長
1991-92 年度	RIBI 副会長
1984-85 年度	地区ガバナー

### 親愛なる朋友ロータリアンの皆さん

一世紀余りにわたり発展し続けてきたロータリーの奉仕を振り返るとき、私たちの未来は、苦境にある人々に希望をもたらし、争いの絶えない世界に平和をもたらす幾世代ものロータリアンによって末永く確かなものとなるに違いないと胸を張って言えます。私たち一人ひとりは、いわば過去を未来へとつなぐ鎖の輪のような存在で、大いなるロータリーという伝統の一部を成しているとたとえることができます。

この鎖が解けることなく永続していくためには、個々の輪が強くなくてはなりません。ロータリーの未来への鎖を堅固なものに鍛え上げることは、私の責務であり、皆さんの責務です。今年より来年、また、来年より再来年、さらにロータリーを強くしていくことは、私たちの責務です。また、ロータリーが、明日、次の新たなチャレンジに取りかかるよう、今日、ボリオのない世界を築くという約束を果たすこととも、私たちの責務なのです。マハトマ・ガンジーは、かつてこのように言いました。「未来は、私たちが現在成すことによって決まる」第二世紀においてもロータリーの発展を望むのであれば、現状に甘んじているだけでは十分とは言えません。これから長い道程に備えて地図が必要となりますが、私たちはその地図をすでに携えています。

国際ロータリーは確かな未来を築くため、世界中のロータリアンから協力を得て、7つの優先項目を掲げた長期計画を立てました。今、この計画を実行に移すときがやってきました。

- 「ボリオを撲滅する」
- 私たちの最優先事項です。募金のチャレンジを通じて、この重要な仕事を完遂し、世界に対して約束を果たすために、私たちはリソースの提供というかたちで力になることができます。
- 「ロータリーに対する内外の認識と公共イメージを高める」

- ロータリーが新会員を引きつけ、他団体からの協力を得ることにつながります。ボリオ・プラスでロータリーは世界の表舞台で活躍するようになりました。今後は、地元と世界における奉仕活動をメディアと地域社会に広め、国際的な地位を築いていくときがやってきたのです。
- 「**他者に奉仕するロータリーの能力の増大を図る**」
- ロータリーの使命の核心に触れるものです。四大奉仕部門に沿って時間と才能と熱意をこれまでより少し多く捧げるなら、すべてのロータリアンがこの目標に向けて貢献できます。2009-10年度も、近年、クラブが取り組み続けている重要な問題、すなわち、水、保健と飢餓救済、識字率向上の分野における奉仕活動に専念するよう、ロータリアンに呼びかけていきます。
- 「**ロータリーに対する内外の認識と公共イメージを高める**」
- 重要な優先事項です。これは、ロータリーが達成すべき目標のすべてが会員をよりどころとしているからです。資格ある新会員をもたらすことは、私たち一人ひとりの責務です。しかしながら、この責務を果たしているロータリアンはわずかです。ほかの人々にクラブへの入会を勧め、会員を増やすことができるのロータリアンしかいないのです。
- 「**ロータリー独特の職業奉仕への取り組みを強調する**」
- ほかの奉仕団体や人道団体とロータリーとの違いを明確に分けるものです。職業倫理への高い水準を保ち、日々実践することによって、私たちは同僚や従業員、顧客はもちろんのこと、競合相手に対しても模範を示すことができます。
- 「**国際ロータリー内の指導的才能を最大限に活用し、育成する**」
- ロータリーの未来にとって欠かせない要素です。私たち一人ひとりが、なんらかのかたちで指導的役割を担うべきです。クラブレベルで委員会の委員長や奉仕プロジェクトの委員を務めたり、地区レベル、国際レベルで活躍するなど、さまざまな役割があります。すべてのロータリアンは職業において指導的な立場にある人々ですから、ロータリーにおいてもこの指導力を発揮すべきです。
- 「**組織全体を通じて継続性と一貫性を保つために、長期計画の手順を完全に実施する**」
- クラブ、地区、国際レベルで毎年指導者が交代する際に、引継ぎが効果的に行えるようにすることが目的です。

この長期計画はRI理事会が承認したものではありますが、これを実施するのは皆さんです。RI会長が、皆さんのクラブに入会するようにと新しい会員を誘うことはできません。また、RI理事会が、ボリオ撲滅の支援に向けて、皆さんの地域で募金活動を企画したり実施したりすることもできません。同様にシニア・リーダーが、皆さんの職場でロータリーの倫理規範を実践することもかないません。すべては、皆さん自身が実行しなければならないのです。ロータリーの未来はあなたの手の中にあります。

一人ひとりのロータリアンに自らの責務を胸に刻んでいただくために、この真実を2009-10年度のテーマとして選びました。かのウインストン・チャーチル卿は、「偉大さの代償は責任だ」と述べています。ロータリーは偉大な組織です。私たち一人ひとりが課題に立ち向かい、未来に対する責任を果たすなら、ロータリーはさらに素晴らしい組織へと発展する可能性を秘めているのです。

ロータリーにおいては、「ロータリアン」という肩書きの下、各会員に仕事が与えられています。私たちの任務は、地元と国際社会において必要とされる奉仕を提供すること、そして、事業と専門職務に携わるリーダーを新会員として誇り、地域社会で好ましいイメージを築きながら、クラブの器を広げていくことです。ロータリアンとしての私たちの職務には、職場と私生活において倫理的行動の規範を示し、クラブと地域社会においてリーダーの役割を務め、ロータリーの最優先事項であるボリオ撲滅を全面的に支援することも含まれています。ロータリアンという仕事には、計り知れない恩典があります。私たちは、かけがいのない親睦を享受し、他者のために尽くすという個人的な生きがいを得ることができます。皆さんのがロータリーとその力を信じるのであれば、今こそ立ち上がり、全身全霊でロータリアンとしての仕事に全力投球するときです。ロータリーの未来はあなたの手の中にあるのです。



# 国際ロータリー2760地区

## WCS活動報告書

2009年～2010年版

地区内各クラブの報告



ベトナム ハノイ ホープセンターにて

## 世界社会奉仕活動報告書

2010年6月1日

高浜ロータリークラブ

国際奉仕委員長 神谷昌彦

2010年2月25日～3月1日まで、高浜ロータリークラブ奥野会長はじめ8名のメンバーでタイ北部にあるバーンロムサイを視察し、5万円を寄付してきました。バーンロムサイはHIV母子感染孤児の生活施設で、名取美和さんという方が代表をしてみえます。ジョルジオアルマーニジャパン社の資金協力を得て、1999年12月にチェンマイ市郊外に開設されました。2009年2月現在、5歳～17歳までの子供たちが暮らしています。日本のロータリークラブも複数資金を寄付してみえます。現在は1日2回、12時間おきに薬を飲めば発病しないところまで進歩してきていますが、まだ社会の偏見が多く、子供たちには手に職を就けて世の中に送り出すようにしています。

写真は私たちと名取代表のものと、薬を飲むための子供たちそれぞれのコップを移したものです。私たちは今後もこの施設をバックアップしていくつもりです。



## —AGUDAA・V・フィリピンと共に—

### 一宮中央ロータリークラブ WCS 活動

国際奉仕委員長 森 俊一郎

1998 年に、フィリピンイースト大学歯学部およびマニラロータリークラブと愛知県に本拠を置くボランティア組織 AGUDAA・V・フィリピンとがはじめた、フィリピン貧困地区における無償歯科医療活動に、当クラブ会員 2 名が参加していることから、毎年 10 万円の支援金を寄付してきました。

この活動では、貧困のため医療の恩恵にあづかることのできない地域住民を対象に、歯科治療（抜歯・充填・歯石除去など）および口腔衛生指導を行っています。さらに数年前から、何よりも予防が大切ということで、小学生を対象としたフッ素洗口事業を、マニラ郊外にある児童数 3000 余名のサンビセンテ小学校で立ち上げ、毎年教員の指導と、フッ化物の寄付をおこなっています。

2009 年度は日本から 30 名の歯科医師が参加し、マニラのはずれにある水上生活者の住む地区で無償歯科医療活動を行う予定でしたが、鳥インフルエンザがその地域にも蔓延しているとの情報が入り、やむなく中止しました。したがって、フッ素洗口に関して、8 月 12 日から 17 日にかけて日本から 5 名がフィリピンに出かけ、サンビセンテ小学校で口腔衛生指導（ブラッシング指導など）と口腔健診を行ってまいりました。

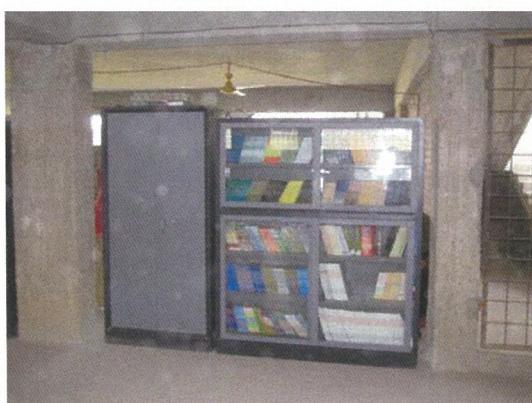
当クラブからの寄付金は、本年度はフッ化物や歯ブラシの購入やに当てられました。なお、2010 年 8 月には、会員も参加し、昨年予定された地区にて歯科治療と行うことになっています。



## 2009～2010 年度のWCS活動報告

R.I.D.2760 西名古屋分区  
名古屋栄ロータリークラブ  
2009～2010 年度 国際奉仕委員会  
委員長 三浦 幸治

昨年度から国際奉仕活動として 3 カ年の継続事業として、バングラデシュの小学校に図書施設および図書寄贈プロジェクトを企画。1 年目にあたる昨年度、事業の始めとして、計画および 2009 年 5 月 15 日、当時の福本会長・羽田野国際奉仕委員長と 3 人でバングラデシュを訪れ、ダッカにあり、創立 24 年 会員数 33 人のコスマポリタン RC との提携調印式を行った。事業 2 年目の今年度、コスマポリタン RC と共同事業として、デムラ村にあるキンダガーデン小学校に、書棚等の図書施設および図書約 500 冊の調達。また栄 RC からの企画として、日本や雪を見たことのない現地の子供たちに、日本の絵本「てぶくろをかいに」(新見南吉 著)をベンガル語に訳した絵本を 1000 部作成。これらを寄贈すべく、2010 年 1 月 24 日、長瀬会長・羽田野君・上坂君・私 三浦と弊社社員でバングラデシュ出身のファラハッドと共に訪問。まずは、提携 RC であるコスマポリタン RC とのジョイント・ミーティングに出席。名古屋栄 RC の奉仕活動など紹介。この模様は現地の新聞 6 紙に「日本からバングラデシュの奉仕活動にやってきた」と大々的に報じられる。翌日、キンダガーデン小学校に出向き、贈呈式を行った。絵本については、児童一人一人に手渡し、子供たちの喜ぶ姿に大変感動を覚えると共に、現地にて分かった彼らの置かれている衛生環境なども考えさせられ「何とかして助けてあげたいと」いう気持ちが増した。次年度は、長期で企画したこの事業も 3 年目を向かえ R 財団の「未来の夢計画」での補助金も活用しながら、インフラ設備を寄贈予定。



名古屋丸の内ロータリークラブ

幹 事 岩田 宏

国際奉仕委員長 植木 広次

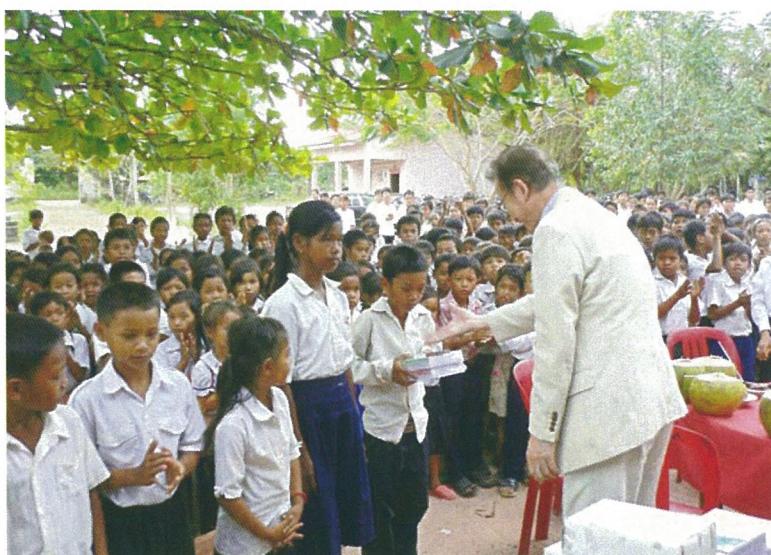
## 2009-10 年度 世界社会奉仕活動 (W C S) 報告書

実施日： 2009年 11月 15日～ 2009年 11月 16 日（ 2日間）、場所：カンボジア コンポット州

活動： 現地の医師と共に薬の購入をして診療所に配置。現地にてノートと鉛筆を購入し、小中学生に手渡した。

恩恵を受けた人々：コンポット地区の住民

長期的に見て、コンポット地区の住民がこの治療薬品を得た今、この地域社会での健康促進、医療レベルの向上意識が発展し続けていくものと予測される。コンポット地区の住民は、地区を発展させる活動をするため健康維持に努め、そのための十分な治療を確保できるだろう。また、小中学生の学校へ通う意識を高揚することは高等学校の設立につながり、ひいては地域を発展させる人材が育つと予測される。



2010年6月30日  
田原ロータリークラブ  
国際奉仕委員会

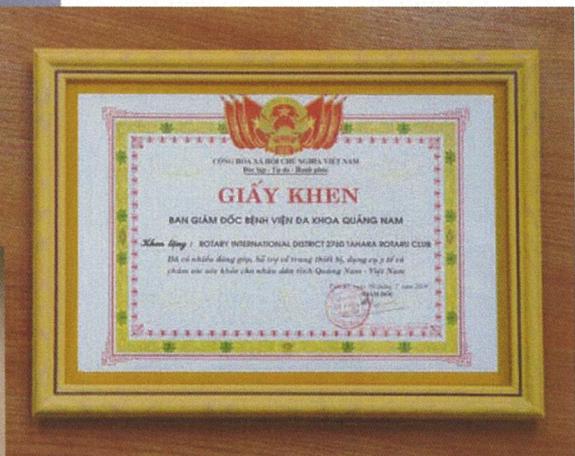
## 2009 — 2010 WCS活動報告

- ・実施国 ベトナム
- ・事業名称 ベトナム口唇口蓋裂医療援助

当クラブはベトナムで口唇口蓋裂患者の医療活動を続ける豊橋市民病院の山本忠口腔外科部長に対して、2003年度より援助金を贈る等支援を続けています。口唇口蓋裂は唇や上あごが縦に裂けてしまう病気です。東南アジアは日本より患者が多く、治療を施す医師がいない地域が多いとのことです。山本先生はボランティアで毎年ベトナムを訪問し、現地の医師への指導や患者の治療に当たっています。

本年度も山本先生のベトナムでの医療活動に対し当クラブから援助金10万円を贈呈しました。山本先生は本年定年を迎えたが「今後もできる限り活動を続けたい」と話されていて新たな展開が期待されます。

尚、本年度は当クラブの長年の援助に対し、現地のクアンナム総合病院（クアンナム省タンキ一市）より感謝状をいただきました。



2009～2010年度  
岡崎南 RC における世界社会奉仕活動 (WCS) 報告

海外交流委員長 鈴木博文

活動内容としましては 1996 年より当クラブとして継承されております韓国慶州ナザレ園へ  
今年度も 2 月 19 日より総勢 17 名にて慰問訪問を通じて義援金 200,000 円と故郷を偲ぶ数々  
の品々の贈呈を行いました。



日韓併合の時代、韓国の男性と結婚した日本人女性が戦争終結とともに故郷に帰る夫と一緒に韓国へと渡り、その後の朝鮮戦争で夫を亡くしたり、あるいは生活慣習の違いにより姑さんとの不和、日本人に対するいじめ等様々な理由により一人暮らしを強いられた日本人女性を援助し日本に送り返すまでの一時保護施設として 1972 年慶州ナザレ園は福祉事業家の金龍成氏によって設立されました。

反日感情の強い韓国の中でも金氏は『同胞の青年を愛してくれた日本人を見過ごす訳にはいかない』と異国の地で孤独や困窮にあえいでた日本人女性のために資財をなげうって同園を設立したわけである。反日とか愛国心とか民族といった障害を乗り越えた現実がそこには存在している。



今年度の訪問におきましては当クラブとこのナザレ園との橋渡しに生涯多大な尽力を注がれました当クラブの故磯部正明会員（2009 年没）のその功績を称えられナザレ園の宋美虎園長より感謝牌が贈られました。



故郷に帰れずナザレ園で亡くなった方々の納骨堂に

石碑があります。そこにはこう書かれております。

『死んだら韓国の土になります。けれど魂は日本に帰ります。』

当クラブは 20 余年に渡って毎年この活動を継続して参りました。この言葉を胸に刻み、  
今後とも更に多くの会員の参加を推進し継続していく所存です。

WCS活動報告書

一宮ロータリークラブ

- ① さいたまユネスコ協会を通じて  
ネパールの子供達の奨学支援並びに学校建設の目的で毎年寄付をしているので今年度も継  
続して寄付を行ないました。  
10名の里子から手紙と近況の写真が届きます



- ② フィリピンマニラのサンマルセリーノRCを通じて一宮市で廃車となる消防車・救急車各1台を  
マニラ市へ寄贈



岡崎東ロータリークラブ  
2009～2010年度 国際奉仕委員会  
委員長 稲垣寿

世界社会奉仕活動（WCS）報告書

1. プロジェクト名 「カンボジア ティタゴイ小学校支援プロジェクト」

2. 事業に至る背景

ティタゴイ小学校（プライ・ベインク州バプノム郡ティタゴイ村、プノンペンより 80 km）では児童数の半分程度の教育設備（教室、什器、備品等）しかないために、充分な教育が受けられない状態にあった。現地のティタゴイ小学校支援団体(Powwatanak Project Accountant)の中心人物であるソテアラ氏が、当クラブが世話クラブとして応援した、元米山奨学生コンティリ氏（当時、名古屋大学准教授）の友人であったため、その支援プロジェクトの紹介を受けた。2008年6月8日～11日に現地視察を実施。6月9日に指導者討論会を開催し、村長、校長、有識者との会談を通じ、その現状を把握し、世界社会奉仕活動として取り組む必要性を理解した。

3. 事業計画

8～09 年度より、3 カ年計画で、の教育環境の充実の為、什器備品図書等の支援をする。

4. 実施内容

2008年7月

クラブ内にカンボジア支援プロジェクト委員会を設置。月 1 回の粗食例会の食費差額の寄付、カンボジア義援金活動に全会員で協力し、支援金の一部を賄う。

2008年8月

ロータリー財団地区補助金を申請し、150,000 円の補助金が決定した。

2009年3月23日

現地にて本棚、制服、シューズ、歯磨きセット、教材、薬等(総額 300,000 円)を寄贈。支援訪問団 5 名が赴き贈呈式に出席。

2010年1月7日～11日

現地支援団体のプロジェクトである校舎新設竣工式に合わせて、09～10 年度の什器備品図書等(総額 100,000 円)の支援を実施。式典に出席し、Im Sethy 大臣より感謝状、勲章を授与される。

5. 今後の展望

10～11 年度は 3 カ年計画の最終年度にあたるので、現地訪問を含め、締めくくりに相応しい支援活動を実施する予定である。



## 大府ロータリークラブ

2009年—2010年はフィリピンバレンズエラロータリークラブの協力を得て、継続中の事業を行いました。 本年度のWCSは、フィリピンで昨年春の台風による水害を受け、これに対する援助とする事にしました。

バレンズエラロータリークラブからの情報で多くの世帯が家具道具（衣料を含む）を失っており、当クラブ会員より使用しなくなった中古衣料の搬出を募り、それに加えディスカウントショップより良質の衣料を購入し援助する事にしました。それを当初は航空便での空輸を計画していましたが予算等を考え 11月5日からの出国時の手荷物にてフィリピンへ搬入いたしました。

バレンズエラロータリークラブとは、当クラブ設立以来、関係を持っており、フィリピンに対してその時節に合ったタイムリーな援助の方法や手段を得るための密なコミュニケーションを取っています。

今迄の良好な関係を元にして、今後もフィリピンへの良質なWCS活動を継続していくたいと思っています。



名古屋守山ロータリークラブ  
2009～2010年度WCS活動報告書

2009～2010年度、名古屋守山ロータリークラブは創設以来はじめて国際友好クラブの設立に向けて動き出しました。クラブ会員への友好クラブに対する理解促進、意識醸成と要望収集などする為、全会員を対象としたアンケートを実施しました。望ましい地域、また親睦を中心としていくか、WCS活動を柱としていくかなどの項目を確認しました。

結果としては、クラブとして経験がないこともあり、まず親睦を優先した友好クラブを設立し、機会或いは継続性などを十分に分析した上でWCS活動が可能な友好クラブも今後拡大していくという決定をしました。

折も折、2010～2011年度の地区補助金にエントリーする運びとなり、幸い我がクラブ提案の事業が補助金の対象となることが決定をいたしました。事業内容は「不用になった楽器をカンボジアの子供達に贈ろう」というもので、地元の小学校、中学校を中心に不用となった楽器を集め、カンボジアの文化芸術省を通じて、カンボジアの音楽教育の器材として子供達に贈ろうという内容のもので、まさに次年度の我がクラブのWCS活動であります。これに並行し、カンボジアを訪問する際にこの事業とは別の目的にはなりますが、現地のロータリークラブとの親睦活動を実施するべく、プノンペンロータリークラブと友好クラブの話を進めて参りました。

従いまして、2009～2010年度の我がクラブのWCS活動は調査並びに準備の段階に位置づけられ、実際に活動した実績のご報告はありません。

しかしながら、クラブ全体としてWCS活動を含め、国際奉仕活動に対する意識の開発には確実になったと思います。国際奉仕活動の場合、単年度で決着をつけることはある意味難しい場合もあります。次年度に引継ぎをしていく結果とはなりましたが、最終的に実り多き結果が残せればと願っております。またWCS活動を推進していくことはクラブ全体の協力が必要であり、例えば我がクラブがこれまでに積み上げてきた地域への社会奉仕の実績が「協力」というかたちで表れたとも確信しています。

地区国際奉仕委員会各位には今後ともご支援とご鞭撻を願い、ご報告とさせて頂きます。

2009～2010年度  
名古屋守山ロータリークラブ  
国際奉仕委員長 木村隆之



## 国際ロータリー2760地区

# WCS活動視察旅行報告書

- ・国際ロータリー3500 地区
  - ・ハノイ ホープセンター
- (2010年4月8日)



国際ロータリー3500 地区中華民国桃園地区ガヨーハール補助金関係者との打合せ

## 2009～2010 年度WCS活動報告

地区世界社会奉仕委員会

委員長 篠橋 美久

2009～2010 年度のWCS活動は、今年度で17年間継続しているタイ国チェンマイ（3360 地区）愛知奨学基金から地元（山岳地区）の小学生への奨学金の贈呈、また、地区として始めてベトナムへの支援（ハノイ・ホープセンター支援）として、活動して参りましたのでご報告致します。

### 1. 愛知奨学基金贈呈式への参加（3360 地区への支援）

- ①日程は、2010年2月20日（土）
- ②参加者は、国際奉仕委員会及びWCS委員会のメンバーにて参加
- ③3360 地区ガバナー、地区役員及び地区内RCの代表が参加
- ④奨学金贈呈対象小学生は、40人に一人当たり7,000円授与

### 2. ベトナム・ハノイ市における障害児教育施設増築

- ①プロジェクト地： ハノイ市
- ②プロジェクト名： ハノイ第一ホープセンターABC3建設（増築）
- ③プロジェクトの規模： 校舎1棟（教室4室、オフィス、会議室、トイレ2箇所、台所）
- ④総費用： 33,000ドル（320万円）

このプロジェクトは、JICA、立命館大学、ハノイ師範大学の協力のプロジェクトであり、3月31日までに完工することを約束し、1月12日（火）に調印致し、4月9日（土）に引渡し式を終えることが出来ました。  
当地区からの参加者は、総勢18名で御座いました。

### 3. 次年度からのプロジェクトとして

ロータリー財団の補助金制度（未来の夢計画）の活用を推進すべく、3500地区（台湾桃園地区）との連携及びプロジェクトの共同推進を図るための意見交換会を4月8日（金）台湾にて行い、3500地区ガバナー、ガバナーエレクト、ガバナーノミニー始め地区役員が参加され活発なる意見交換会となりました。

以上、2009～2010年度WCS活動の報告とさせていただきます。

次年度も、皆様にとって実りのあるプロジェクトをご提案、ご提供させていただきますので、今までより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この一年間地区世界社会奉仕委員会にご理解、ご協力を頂き有難う御座いました。



2009-10 年度地区WCS 観察旅行を終えて

国際奉仕委員長 黒田勝基

地区国際奉仕委員長という立場で今回、台湾-ベトナム（ハノイ）のWCS 成果の観察に参加しました。地区世界社会奉仕員の方々、ご苦労様でした。また、参加していただいた多くの方々、ありがとうございました。今回は例年に比して、2回に分けてWCS 観察を行いましたが、私が参加したのは第2回目のそれでした。

まず、台湾D.3500 地区とは次年度からのロータリーの『未来の夢計画』に基づくグローバル資金を使ってのWCS 活動の合同プロジェクトの推進が可能かどうかの検討ということで懇談会を行いました。感想は3500 地区の国際奉仕および世界社会奉仕活動に取り組む姿勢が我々地区と大きな差があるということです。ガバナー及び経験者、地区役員など地区重鎮が大挙して出席され、世界社会奉仕の実行を強力にバックアップせられていました。我々地区も地区委員会が各方面に強くアピールして、地区一丸となって推進していく姿勢が必要だと痛感させられました。

台湾で1泊し、翌日はベトナムでのホープセンターの引き継ぎ式に出席しました。今年は時間的にかなり厳しかったものの立派な障害児童のための教育施設（ホープセンター）を皆さま（多くのRC）からの淨財で寄贈することができました。

この様な活動は実際に現地で見て、理解して、体感して初めて次の展開が開けると思います。まだまだロータリーが行うべき世界社会奉仕活動は山のようにあります。写真や映像で見ることと、実際現地に赴くことでは気温や湿度、距離などを体感できることはもちろん、その時のその場所にいる子供たちの声を聞き、心の動きを感じることができます。子供たちが何を欲しがっているか、どういう行動を期待しているかがわかります。そして我々のやるべき方向がいろいろな関係者、子供たちと接するときに見えてきます。淨財をお預かりし、事業をお任せいただくことはとても価値あることだと思います、が、是非実際に皆様の参加を頂き、感じていただきたいと思います。

グローバル資金活用ということで、次年度はさらに地区世界社会奉仕委員会の役割は重要性を増しますが、基本は皆様各ロータリアンの奉仕の心の積み重ねだと思います。

最後にこのWCS 観察のもう一面の良さを紹介します。今回もいろいろなクラブから18名のロータリアンが参加していただきましたが、全員とロータリーの奉仕の心で一つになれる素晴らしい体感しました。『どこであってもヤアといえる』関係ができたと思います。



## 地区報告・2009～2010年度WCS活動報告

R I 2 7 6 0 地区 世界社会奉仕委員会 酒井法丈  
(豊田ロータリークラブ)

### ベトナム・ハノイ市における障害児教育施設増築プロジェクトを終えて

- ①プロジェクト地： ハノイ市
- ②プロジェクト名： ハノイ第一ホープセンターABC3建設（増築）
- ③プロジェクトの規模： 校舎1棟（教室4室、オフィス、会議室、トイレ2箇所、台所）
- ④総費用： 33,000ドル（320万円）

このプロジェクトは、JICA、立命館大学、ハノイ師範大学の協力のプロジェクトであり、3月31日までに完工することを約束し、1月12日（火）に調印致し、4月9日（土）に当地区から18名参加し引渡し式を終えることが出来ました。

このプロジェクトを終えての感想ですが、目覚ましい発展を遂げているような国として報道されていますが、その実情はまだまだ諸外国の援助なくしては成り立っていないと感じました。また、援助慣れしている面も多くあるように感じました。

地区WCS委員会としては有意義なプロジェクトである事は事実であります。60年以上も前の日本でも、荒廃から発展に繋げられたのも、世界からの支援が大きな要素であったと思います。ロータリーの支援活動はピンポイントでの支援でしかありませんが、我々もそうであつた様に、将来への弾みになればと期待したいと思います。



平成 16 年以来 6 年ぶりに訪れたハノイは喧噪の中にあった。街路には以前よりかなり車が増えたようだ。前回の印象は町中バイクの洪水！というものであったが、バイクの流れはさながら大きな川のように全体としては均一な流れを作っていた。今回はバイクの流れの中にそれを遮るように車が我が物顔をして入り込み、乗用車は絶えず遅いトラックを追い越そうとし、バイクはその間隙をついて前に出ようと右から左から入り込み交通は混乱の極みである。ハノイからハロン湾への道中数回の交通事故に出くわした。正面衝突や路側での横転など大事故ばかりである。こんな場所ではとても自分で運転ができそうにない。至る所で工事中である。日本も東京オリンピック直前の頃はこんな風であったのであろうか。一面に広がった水田は豊かな収穫を思わせるが、そのあちこちに赤土の山が見え、もう至るところで道路や橋を作っている。車が少し郊外に出ると建築中の住宅団地が次から次へと目に入ってくる。日本の高級マンション並の豪華そうな高層アパートも随分目につき、パリの凱旋門かと見まごう巨大な門を備えたマンション群まである。まさに雑然の極み！現在のベトナムの姿である。月収は 15,000 円程度というから、日本の二十分の一程度か。そんな平均所得レベルでながら高級外車や億ションが買える人々が一方にいる。急激な経済発展に社会システムが追いついていないのであろう、社会の経済格差は歴然としている。

ベトナムの教育システムも社会変化に追いついていないのであろうか。生徒数が多く小中学校では何と午前組・午後組の「二部授業」が行われているそうだ。日本人で「二部授業」という言葉を聞いて理解できるのは、おそらくはそれを経験した我々団塊の世代だけであろう。そういう社会状況の中で「障害児」の教育が学校で位置づけられていないのはある意味で当然であろう。私たちは、JICA と立命館大学の協力の下、今年の地区 WCS 活動として障害児教育訓練施設ハノイ第一ホープセンターの施設を贈呈することができた。今後このセンターで教育者の訓練や指導が行われ、障害児 教育の経験や実績が積み重ねられ、ベトナムでの障害児教育発展の礎石となってくれることを願うばかりである。

三浦俊彦



R I 2 7 6 0 地区 WCS 委員会 台湾・ハノイ活動に参加して  
度会 尚志

今回初めてWCS活動に参加させて頂きました。正直メンバーのみなさんが旅なれた方ばかりで驚きました。出入国カードの機内での記入やホテルの精算・2国間をまたがるスケジュールなど大変良い経験をさせて頂き委員会活動の一端に胸がワクワクしました。

さて、4月8日は台北のホテルにて3500地区の国際奉仕・WCSメンバーと会議を行なわれました。台湾のメンバーが日本語・英語に堪能なのに驚かされました。会議の内容はそれぞれのWCS活動についての報告でしたが、台湾のWCS活動の内容には規模・スケール共に感心させられました。今後についてはWCS活動について共同して行なう案も出て大変有意義な良い会議で有ったと思いました。

翌日には台北からハノイへ移動、入国審査後、昼食を食べてホーフセンターに向かいました。今回の活動の対象として経済発展目覚ましいベトナムが選ばれたことにいまいち理解が出来なかった私にとってホーフセンター到着後、障害児童にとっての環境はまだまだこの国にとっては発展途上の問題だと理解するのにそんなに時間がかかりませんでした。

いよいよホーフセンター教室増築引渡式が始まりました。短い工期で仕上げてくれたとの事、一連の工事の流れの写真が木と木にロープを張りそこに順序良く張り出されていました。建物前の校庭?に子供たちと先生そして私たちが座り、新しい建物側には私たちが持ち合ったそれぞれのクラブのバナーを飾りその前でセレモニーが始まりました。私にとっては初めてのクラブバナーデビューでした。黒田国際奉仕委員長、立命館大学の先生、ベトナムの関係者、JICAの職員そして籠橋WCS委員長から挨拶をいただき、テープカットを行ないました。そのあと子供達から歌のプレゼントをいただきました。そのお返しに子供たちへプレゼント、子供たちは満面の笑顔で手にしていきます、欲しいものが貰えなかつたのか泣き出している子供もおりましたが、それでも先生があやして笑顔に。記念植樹そして、みんなで写真撮影と一連のセレモニーが無事に済みました。その頃学校のバスが着き子供達はバスに乗り家路に向かいました。聞いたところこの子達はまだまだ恵まれた家庭の子供達だとの事。この国がもっと豊かになり障害児の多くの子供達が恵まれた環境で学ぶ事が出来ることを望みました。黒田国際奉仕委員長・籠橋WCS委員長を始めとする参加者のみなさんには本当にお世話になりました。特に段取りを取っていただきました佐藤WCS副委員長には感謝を申し上げます。ありがとうございました。



W C S 地区委員会に参加して

東海 R C 村瀬秀和

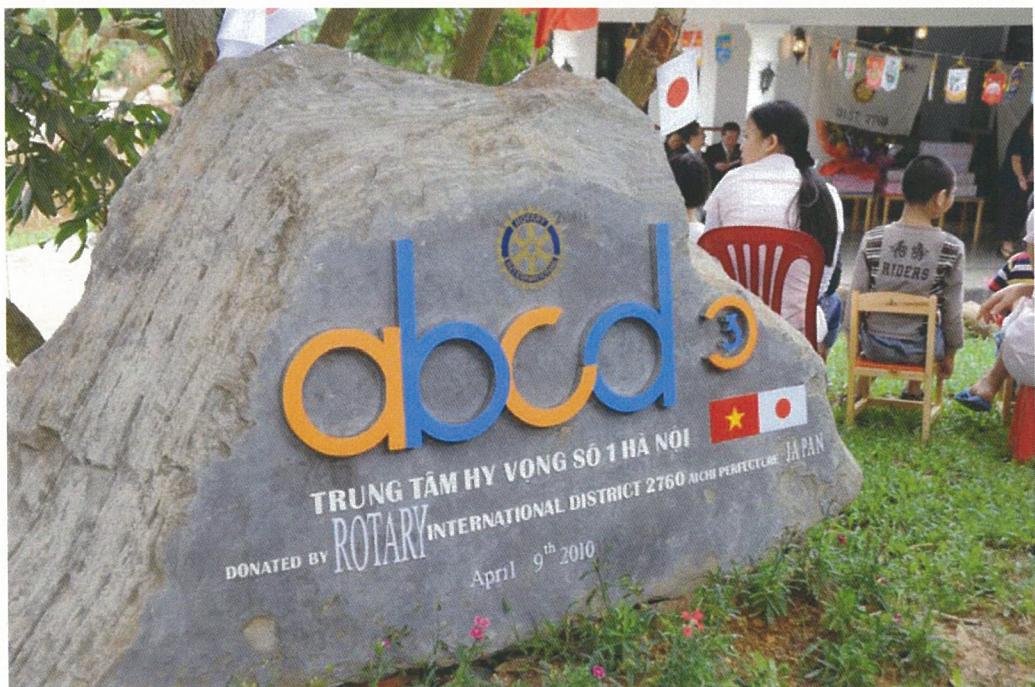
今回地区のW C S 委員会で台湾、ハノイの視察に参加させていただき、委員会の皆様には大変お世話になりました。本当にありがとうございました。台湾では、3500地区の歴代のガバナー役員の皆様と国際奉仕について、大変有意義な意見交換が出来たと思っております。又ハノイでは、ホーフセンター教室引渡式に参加させていただき、J A I C A の松永氏、立命館大学の荒木教授を始め多くの立命館大学の職員と完成を祝いました。

現在のベトナムは、高度成長を続けており30歳未満が60%という日本の昭和35年の人口比率と同じ構成になっており、東京オリンピックの景気を思わせる勢いです。現在アジア全体が大変な勢いで成長しているようで、日本との勢いの差を痛感しました。

ホーフセンターにもハンガリー政府から庭や遊び場の寄付もあり、各国政府の思いや、善意の寄付が多く集まる中で、どんな活動が良いのかを考えさせられました。

ラオス、カンボジア等のアジア諸国でも、まだまだ援助の手をさしのべる所も多くあるように思えます。私の好きな言葉に〔恩送り〕が有ります。受けた恩人にではなく、その他の人に返すその循環が心豊かな国作りになるのではと思われます。

戦後目ざましい復興を遂げた日本のアジアにできる小さな恩返しではないかと思いました。



35年前、初めてベトナムのホーチミンを(社)津島法人会青年部で訪れたことがあります。その時の事は今でも私の記憶に鮮明に思い出されます。街中に、交通ルールは無視の自転車があふれ、使い捨てライターのがス充てんする店があり、タイヤの上にタイヤを貼り付け外側に溝を掘り再生する店があったり、市場の外に野菜の切れ端を路上で売っていたり、街中のうろうろしている犬も路上に食べる物も落ちていなく瘦せて、街の中にゴミ一つ落ちていなく再生できる物は全て、再生する大変エコな街であった印象があります。もっと驚いたのはバスで目的地について降りようとすると、防棄材によると思われる奇形児の子を抱いた母親がすぐに近づいてきて物乞いをしていました。その当時、夜の11時には外出禁止になり、密輸品の取引が行われ無法地帯になっていました。そのおかげかわかりませんが、日用品は全て街中にあふれていました。今回訪れた時には自転車がオートバイに変わりましたが、夜更けまで若者が街中を走り回っている同じような光景に出くわしました。今回の目的である教育関係の施設の見学をさせていただきましたが、今までWCSで訪れたラオスとは大違いで教育には大変熱心で施設・学校の授業内容、先生方は充実していました。今後のベトナムは想像以上の早さで経済発展をするのではないかと思います。そのようなバイタリティを感じました。

鈴木 吉男



## 「WCS 教育支援に参加して」

瀬戸北 RC

平尾 節子

2760 地区の国際奉仕委員会・WCS活動として、2006-07 年度にラオスのホワイサラ村、2007-08 年度にラオス・ナタック村、2008-09 年度にはラオス・サムトン村で、小学校校舎建設・寄贈に参加しました。この間3回にわたって、タイ・チェンマイでの「愛知奨学金」贈呈式にも出席しました。小学生一人ひとりに奨学金を手渡したとき、「コブ・チャイ」と言う可愛い子どもたちの輝く瞳に感動したものでした。

今回は、台湾・台北およびベトナム・ハノイへ教育支援に行って参りました。総勢18名。4月8日（木）3500地区（台湾桃園地区）との連携及びプロジェクトの共同推進を図るための意見交換会を行いました。3500地区からは、ガバナー、パスト・ガバナー、ガバナー・エレクト、ガバナー・ノミニー、4代にわたるガバナーはじめ、ロータリー財団委員長、国際奉仕委員長、WCS委員長、その他の地区役員が参加し、私たちは熱烈歓迎を受けました。はじめに、両地区的活動報告がなされ、ついで、ロータリー財団のグローバル補助金制度（未来の夢計画）の活用について、また、次年度からの共同プロジェクト推進のための課題について、白熱したディスカッションが2時間展開し、有意義なミーティングでした。

4月9日（金）ベトナム・ハノイ市へ飛び、ベトナムの障害児童の教育支援に参加しました。

ベトナム社会主義共和国の人口は、約8,600万人、首都はホーチミン。初等教育は5年制（義務教育）で、中等教育は前期（中学）4年、後期（高校）3年制です。6%の知的障害児への国からの支援はなく、大部分の障害児は家の中に閉じ込められ人間的生活は望めない状態のこと。

2009年～2010年度のWCSプロジェクトとして、知的障害児童のための教育施設増設の支援をしました。名付けて「ハノイ市第一ホープセンターA B C D 3建設」。このプロジェクトは、立命館大学、JAICA（国際協力事業団）、ハノイ師範大学の協力プロジェクトです。

規模は、校舎1棟で、教室4教室、オフィス、会議室、トイレ、キッチンの施設で総工費は33,000ドル（320万円）。1月12日（火）調印式でした。

引渡し式が2010年4月9日（金）に行われました。参加者は、2760地区から18名。

立命館大学から、産業社会学部 荒木穂積教授、他6名、JAICAから所長はじめ2名。

ベトナム側は、ハノイ市教育訓練省などの役人。ホープセンターのソン・ハ一所長、ハノイ師範大学障害児学科長・イエン教授、その教え子のホープセンター先生、他約30名でした。

テープカット、黒田国際奉仕委員長の子どもたちへの挨拶の後、子どもたちへのプレゼント60名分（約3万円）を全員で手渡しました。純真な子どもたちの微笑み、笑い声、輝く瞳に心から感動・感激しました。ロータリーの愛の手をつなぐ絆が固く結ばれること、また建設というハード面から教員養成などのソフト面への協力が必要であると痛感しました。

4月10日（土）は世界遺産のHa Long Bayへの往復7時間の長距離バスとクルーズの旅も体験でき、良い思い出となり、皆様に感謝致します。今回も感動をありがとうございました。

2009-2010年度年度R I - 2760地区  
WCS活動に参加して

豊田ロータリークラブ  
会長エレクト 杉浦敏夫

昨年に引き続き地区WCS活動に参加させて頂き、ありがとうございました。

本年はR I - 3500地区台湾の桃園地区とのマッチンググランドとJ A I C Aと立命館大学との共同でベトナム・ハノイ市のホープセンター引渡し式への参加と言う行程で、非常に短期間での日程で動いたので大変でした。

平成22年4月8日8時にセントレア集合で始まり10時5分発のC I - 151便にて一路、台湾は桃園国際空港へ、ホテルチェックイン後14時半からR I - 3500地区ガバナーをはじめ国際奉仕委員会、世界社会奉仕委員会の新旧委員長さん方がお揃いでビックリしました。と言うのも出向いたメンバーは国際奉仕委員長を筆頭に世界社会奉仕委員会委員長と委員会メンバーと国際に係わる方々で人数こそ18名といましたが先方の様なパストガバナー、本年度ガバナー、ガバナーエレクト、ガバナーノミニーまで揃い、上記のような新旧委員長がお揃いでこちらとしてはとんでもなく見劣りするメンバーでの訪問でした。



3500地区役員と

それでも3500地区の皆さんには我々よりもはるかに真剣にWCS活動に努力をしている姿が理解できるミーティングができ、私自身私なりに努力してきたつもりでしたが、まだまだ上辺の奉仕しかしていなかったんだと反省させられ、意を新たにした次第です。たっぷり3時間ほど情報や意見の交換をし、その後の懇親会ではガバナーたちもとても気さくにお話しを頂き、感激した次第です。この縁を大切に更なるWCS活動やマッチンググランドに結び付ければと思いましたし、結び付けるべきだと思います。



翌朝6時にホテルを出発し、8時25分発C I - 791便でハノイへ移動、市内で昼食後マイクロバスで市街地から南へ1時間ほどのホープセンター（障害児支援センター）で増設建物の引渡し式



が行われ参加して参りました。本来は国がすべきではあるが、ベトナムでは国として障害者に対する支援はまだまだ行き届いていないのが現状のようでした。



## 2760 地区社会奉仕委員会

### 台湾・ベトナム（ハノイ）視察参加によせて

#### 1. 農耕社会から工業社会への変革

日本の30～40年前の時代の変革が思い出されます。

現在日本は発展し、最先端の技術そして社会が築かれましたが、人間としての生活のゆとり、やさしさが失われて来ている事にそれが気付き始め、

何とかしなければならないと仕切り直しが始まりつつあります。

・・・・相当のエネルギーが必要！！

#### 1. 今後のベトナム

・・・・若い力が發揮され、急速な発展を遂げて行くと思います。

あまり焦らず、良い方向に発展して行く事を願うばかりです。

☆ 初夏の町 自転車の波 流れ行く

☆ 砂埃 撒いてバイクの 洪水に

\* ホーフセンター教室増築引渡式によせて

それぞれの役員の方々のご奉仕にご一緒させていただき感謝申し上げます。

佐藤様ありがとうございました。

平成22年4月12日

金子紀子



## R I 2 7 6 0 地区W C S の活動への参加報告

名古屋錦R C 中山信義

4月8日から4月11日まで3泊4日の日程でベトナムを中心とするW C Sの活動に参加させていただきましたので、以下報告させていただきます。

ベトナム訪問の主な目的は、ハノイ近郊にある身障児の施設であるホープセンターへ教室を新築し、その引渡式に出席することでした。

ベトナムには都合3日間滞在しましたが、とにかく成熟した日本とは異なり活気溢れる発展途上の国というのが第1印象でした。人口は8650万人で25歳以下の若者が全体の60%以上を占め、さらに毎年100万人以上のペースで人口が増加しているとのことです。ハノイ市街の道路は自動車とバイクで埋め尽くされ、郊外には日系企業を含め多くの外国資本の工場が立ち並び、いたる所でクレーンやブルドーザーなどの建設機械がうなりを上げ、ダンプが行き交う姿が見受けられました。経済成長率も年約6.5%でアジアでは中国に次ぐ高い成長を遂げているとのことです。

しかし、それとは別に都市と農村との貧富の拡大、道路、上下水道等の都市基盤の設備が急激な人口や車の増加に追いつかない、まだまだ一般市民の考え方（倫理観など）に問題があるなど発展途上の国特有の課題を抱えているように見受けられました。

その中で、当然のことながらベトナムでは、身障者などの社会的弱者の権利保護や救済が立ち遅れしており、今回、W C S が身障児の教育基盤の整備を図る一環として新しい教室を提供したことは優れた着眼に基づくW C Sの活動としてふさわしいものと感じた次第です。

なお、身障児の就学率向上を目的とする教育プログラムを支援するJ I C A（独立行政法人国際協力機構）で働く若い日本人の姿が印象に残りました。

彼らは、親や周囲の反対を受けながらも発展途上の国で人の役に立ちたいと難関を突破してJ I C Aへ入り、現地の悪い環境をものともせず頑張っていました。同じ日本人として大変頼もしく思った次第です。

以 上



## WCS ハノイ に参加して

一宮中央 RC 森 榮

所属する一宮中央ロータリークラブは、ここ 10 年来、NPO 「AUDAA-V-フィリピン」がフィリピンの貧困地域において年 1 回実施する無料歯科医療活動に、WCS 事業として寄付を続けています。私自身も、ほぼ毎回その歯科医療団に参加し、カウンターパートとのやり取りや子どもたちへの口腔衛生指導、歯科治療を担当しています。今回、地区国際奉仕委員会の一員として、自分のライフワークである障害児のための奉仕活動ということから、ハノイ旅行に参加させていただきました。

教室を寄贈したという「ホープセンター」は、ハノイからかなり離れた農村地域に作られています。貧しい地域ではありますようが、辺りの農地は見事に耕され、毎回フィリピンで感じる「ごみであふれた不潔さ」は感じられず、この国の前途が見えるようでした。

感謝の気持ちが伝わる歓迎をうけ、引渡し式が執り行われました。その間も、私の関心はもっぱら子どもたちに向けられ、まずは彼らの口の状態を知りたくて、無理やり？ 口を開けてとばかりに「あ～んして」とお願いしたのですが、子どもたちに日本語が分かるはずもありません。それでも何とか覗いた彼らの口腔の状態は、担当する一宮市口腔衛生センターの障害者歯科で経験している口腔とは比べられないほど良い状態でした。また、マニラのスラムの子どもたちの悲惨な口と比べれば、さらに格差を感じられました。一般に障害を持つ方の口腔は、管理上からのハンディキャップもあり、虫歯や歯周病にかかりやすいとされています。「なぜここの子どもたちはよいのか？」、私のこの疑問に医師である副施設長さんが答えてくれました。きちんと管理なさっているとのことでした。いろんな意味で治療が難しいこの子どもたちに、口腔ケアがきちんとなされていることは大変すばらしいことです。

新しい教室の中では、肢体不自由の子どもたちのリハビリの様子も見せていただきました。まだまだ発展途上のこの国の中で、ともすれば置き去りにされがちな障害児(者)に眼を向けた、この 2760 地区の WCS 事業に敬意を表するとともに、ご尽力いただいた皆様に感謝申し上げます。

そして何よりも、障害を持ちながらすばらしい笑顔をみせてくれた子どもたちに、心から「ありがとう」。



## 国際ロータリー第 3360 地区

### 愛知奨学金基金引渡式

1994年2月12日 パストガバナー 片山主水さんが地区WCS委員長の時 タイ国チエンマイ地区に初めて愛知奨学金基金を始めて以来本年は16回目の引渡式となりました。

毎年タイ国王女の特別預金利息にて少数山岳地方の恵まれない子供達に約7,000円～8,000円 40～50名位の子供に奨学金を引渡すもので、今年は2月20日にチエンマイのホテルにて3360地区がバナー Waewdao Limlenglert さんと共に5名のWCS委員で引渡すことができました。



## RI2760地区 WCS委員会 台湾 ハノイ4日間

月 日	都 市 名	時 間	交 通 機 關	行 程	朝	昼	夜
1 4月8日 (木)	中部国際空港	8:00	集合時間	チャイナエアラインチェックインカウンター	×	機内食	レストラ ン
	中部国際空港 台北 台北	10:05 12:25	CI151 チャイナエアライン	セントレアより台北へ 台北着 入国審査 DC3500地区 国際奉仕委員会 WCS委員会 会合			
2 4月9日 (金)	台北 台北 ハノイ ハノイ	6:00 8:25 10:35 14:00	集合 CI-791 チャイナエアライン	ホテルロビー 台北よりハノイへ ハノイ着 入国審査 ホーフセンター 教室増築 引渡式	機内食	魚屋	キノコ料理
				宿泊 ヒルトンオペラ ハノイ			
3 4月10日 (土)	ハノイ	8:00	集合 バス	ホテルロビー ハロン湾 観光	ホテル	船上 レストラ ン	レストラ ン
				宿泊 ヒルトンオペラ ハノイ			
4 4月11日 (日)	ハノイ ハノイ 台北 台北 中部国際空港	8:30 11:35 15:15 17:15 20:45	集合時間 CI-792 CI-150	ホテルロビー ハノイより台北へ 台北にて乗換え 台北より中部国際空港 セントレア着	ホテル	機内食	機内食

国際ロータリー 2760地区

2009~2010年度 各クラブの世界社会奉仕(WCS)活動一覧

2009年11月16日現在

分区	クラブ名	活動方針	活動予算	活動地区(クラブ)	活動内容	分区	クラブ名	活動方針	活動予算	活動地区(クラブ)	活動内容
南尾張分区	半田	クラブ独自			¥100,000	東名古屋分区	名古屋北	プロジェクトに参加	100,000		
	東海						名古屋東	プロジェクトに参加	100,000		
							名古屋守山	クラブ独自		検討中	
							名古屋和合	プロジェクトに参加	200,000		
							名古屋名東	クラブ独自		韓国 審信閣RC プロジェクト検討中	¥150,000
							名古屋名北	休止			
							名古屋千種	クラブ独自		タイ キャンヘルブランド	¥100,000
							名古屋昭和	プロジェクトに参加	100,000		
							名古屋錦	プロジェクトに参加	100,000		
							名古屋東山	クラブ独自		検討中	¥50,000
							名古屋美	クラブ独自		検討中	
東知多分区	東知多	クラブ独自			¥350,000	三河分区	豊橋	クラブ独自		ハングルベブシャクRC 山岳民族定住化、教育支 援	¥100,000
	半田	クラブ独自			¥150,000		蒲郡	クラブ独自		検討中	
	知多	休止					豊橋	プロジェクトに参加	100,000		
	大府	クラブ独自		検討中			豊川	クラブ独自		台湾(3510)韓国(3700) 岡山、大部連携RC	¥200,000
	一宮	クラブ独自		ネバール未就学児童支援 学校建設資金補助	¥100,000		豊田	クラブ独自		ベトナム 口唇口蓋裂医療支援	¥100,000
	津島	プロジェクトに参加					豊川				
	西尾	休止					新城市	休止			
	尾張	休止					豊川	プロジェクトに参加			
	あま	クラブ独自		カンボジア			豊橋市	休止			
	名古屋清洲	プロジェクトに参加					豊橋	休止			
尾張中央分区	尾張中央	休止					豊橋	休止			
	一宮北	プロジェクトに参加	50,000				豊橋	休止			
	一宮中央	クラブ独自		フィリピン(3900)マニラRC C 無料歯科診療活動	¥100,000		豊橋	休止			
	瀬戸	プロジェクトに参加	50,000				豊橋	休止			
	江南	プロジェクトに参加	50,000				豊橋	休止			
	東小牧	クラブ独自			¥50,000		豊橋	休止			
	尾張日井			検討中			豊崎南	クラブ独自		韓国 延州ナザレ園	¥270,000
	張り浜						豊田西	クラブ独自		検討中	
	名古屋空港	休止					豊崎東	クラブ独自		カンボジア ラインタゴイ 村 教育施設の支援	¥100,000
	瀬戸北	プロジェクトに参加	50,000				豊田東	休止			
西名古屋分区	岩倉	プロジェクトに参加	50,000				豊崎城南	クラブ独自		キャンパー 教育支援プログラム	¥630,000
	名古屋城北	休止					豊田三好	クラブ独自		検討中	
	愛知長久手	プロジェクトに参加	100,000				豊田中	プロジェクトに参加	30,000		
	名古屋	プロジェクトに参加	200,000				刈谷	クラブ独自		検討中	
	名古屋西	プロジェクトに参加					安城市	プロジェクトに参加	50,000		
	名古屋南	クラブ独自		検討中			西尾	休止			
	名古屋みなと	休止					碧南	プロジェクトに参加	50,000		
	名古屋豊明						一色	休止			
	名古屋中	プロジェクトに参加	200,000				高浜	クラブ独自			
	名古屋埴生	休止					知立	クラブ独自		タイ 3350地区 家庭用排水処理施設設備	¥120,000
名古屋分区	名古屋大須	休止					西尾KIRARA	クラブ独自			
	名古屋栄						三河安城	休止			
	名古屋名駅	クラブ独自		名古3400地区名古山北高取 RC台灣台風被害復旧活 動	¥500,000						
	名古屋名南	クラブ独自		タイ ドンチャン 寺院浄水器メンテナンス	¥100,000						
中部分区	名古屋丸の内	クラブ独自		カンボジアコイン・ツー州の教 育及び医療支援	¥600,000	プロジェクト 参加	22クラブ	1,780,000	ベトナム 小学校建設及 び教材		
	中部分区					クラブ 独自	33クラブ	未 団 告	8クラブ		
						活動 休止	19クラブ				

RI2760 地区世界社会奉仕委員長

篠橋 美久

編集 佐藤 文昭

氏 名	ク ラ フ ノ ム	会 社 名	会 社 T E L
	役 職		会 社 F A X
笠橋 美久 YOSHIHISA KAGOHASHI	名古屋中 地区WCS委員長	東菱電子(株)	052-322-3941 052-323-0558
鈴木 吉男 YOSHIO SUZUKI	津島	(株)鈴木鉄工所	0567-26-5201 0567-26-5214
村瀬 秀和 HIDEKAZU MURASE	東海 地区WCS委員	総合管理サービス(株)	0562-33-2355 0562-33-4818
黒田 勝基 KATSUMOTO KURODA	高浜 地区国際奉仕委員長	クロダ・ト工業(株)	0566-41-2848 0566-42-5149
本間 育 TSUYOSHI HOMMA	岡崎南 地区WCS委員	都市企画(株)アトリエHOMMA	0564-27-1511 0564-27-1512
杉浦 敏夫 TOSHIOSU SUGIURA	豊田	豊田化学工業	0565-28-2651 0565-27-7185
平岩 慎次 SHINJI HIRAIWA	尾張中央 会長	西春歯科 平岩咬合医学研究所	0568-23-9511 0568-22-9059
三浦 俊彦 TOSHIHIKO MIURA	名古屋錦 地区WCS委員	学校法人専念寺学園	052-981-1386 052-981-1384
佐藤 文昭 FUMIAKI SATO	長久手 地区WCS副委員長	小倉鋼機(株)	052-821-7205 052-821-8123
度会 尚志 HISASHI WATARAI	豊川宝飯 地区WCS委員	豊川印刷(株)	0533-86-3349 0533-86-7826
森 栄 SAKAE MORI	一の宮中央 地区青少年交換委員長	森歯科医院	0586-51-2991 0586-51-6303
酒井 法丈 NORITAKE SAKAI	豊田 地区WCS副委員長	豊田警備保障(株)	0565-33-5511 0565-33-5475
金子 紀子 NORIKO KANEKO	名古屋錦	(株)名古屋花き	052-322-1591
中山 信義 NOBUYOSHI NAKAYAMA	名古屋錦 名古屋錦会長	中山・辻・加藤法律事務所	052-953-8747 052-953-8748
中山 まり子 MARIKO NAKAYAMA			
平尾 節子 SETSUOKO HIRAO	瀬戸北 地区国際奉仕副委員長	人間環境大学	0564-48-7811 0564-48-7814
神戸 邦夫 KUNIO KAMBE	豊橋南 地区国際奉仕委員	(株)メタルテクノ神戸	0532-31-6600 0532-31-6603
吉野 勝己 KATSUMI YOSHINO	豊橋南	(株)吉野設計研究所	0532-54-4151 0532-54-4163